

はじめに

加齢とともに臓器の機能は衰えていきます。心臓・肺・肝臓・脾臓・腎臓・脳・・・どの臓器も、いのちの調和をたもつために重要な役割を担っていますが、ひとつの臓器の機能が衰えると、全体的な身体の調和が次第に保たれなくなり、さまざまな臓器が萎縮して生命を維持していくことが難しくなります。

老い衰えていく身体にとって必要な機能を医療で補うことは大切です。透析療法は完璧ではありませんが腎臓の機能を補う治療として、現在の日本で一般的に行われています。腎臓の機能低下が加齢とも関わっていることから、透析療法を受ける方の中でも高齢の方は増えており、75歳以上の方が約3割（9.3万人、2013年末）にのぼります。

一方、病気を加齢現象と捉えて「あえて治療はしないで、自然のままの経過で人生を全うしたい」と願う方々も増えており、将来受ける医療のご自身の希望を示した事前指示を行う方もおられます。それは、ご本人の「幸せのものさし」でみた場合、人生の集大成の生活において「治療がご本人の益となっているかどうかわからない状況」が見受けられるからです。その方にとって治療を行うことが必ずしも「益」とならない場合には治療を見合わせることも視野に入れて、ご本人・ご家族と医療福祉関係者で話し合いを重ねることが大切です。

透析療法を受けることは身体や生活に大きく影響します。また、慢性腎

臓病は基本的に治癒しませんので、透析療法の方法も一生にわたって考えていく必要があります。このような生命や生活に大きく影響する治療を選択する上で大切なことは、「何のために治療をするのか」をご本人、ご家族がしっかりと考え、医療福祉関係者と共有していくことではないでしょうか。どの透析療法をするのか、もしくはどれも選択しないのか、そしていつまでするのかも含めて、お一人おひとりの「生き方」として最適な方法を選ぶことです。いかなる医療の提供も、それがご本人の幸せのためになされるのが前提です。

この冊子は、これから透析療法を受けるかどうかを考えるご高齢の慢性腎臓病のご本人とご家族が、人生の見通しをたてつつどのようなケアを受けたいのか、意思決定のプロセスを一步一步たどることを応援できたら、という思いでつくられています。また、すでに長期にわたり透析療法を受けてこられた方が、この治療の終了について考えたい時の意思決定のお手伝いができたら、とも考えています。

ご本人・ご家族の場合について書き込みながら、各選択肢の特徴に関する説明を読みつつ、考えていくことができます。

この意思決定プロセスノートの使用によって、ご本人にとって最善で、ご家族も納得できる医療の意思決定に至るお手伝いできれば幸いです。